

沖縄県浦添市における地域日本語教育実践活動報告書

～教室運営関係者と共に活動を再考する一歩～

Umi にほんごオフィス 川野さちよ

1. 活動の背景

(1) 研修で設定した課題の背景

2021年度より沖縄県浦添市^{うらそえ}主催で下記の対話交流型(以下、やさしい日本語)の教室を開催。

教室名	「にほんごで話す友だちをつくろう! ～やさしい日本語でやさしいコミュニケーション 2023～」
日時	2023年7月21日～12月15日 全10回(今年度) 隔週金曜日の月2回 19:00～20:30
対象者	「外国人」「日本人」親子での参加も可(市内在住・在勤問わない)
場所	JICA 沖縄 研修室(浦添市内)
活動内容	1回完結型で毎回1つのテーマについてグループや全体でやりとりを行う。
参加状況	毎回14人～20人程度の参加があり、新規の参加者もいる。
主催	浦添市役所国際交流課(以下、市) 共催の浦添市国際交流協会(以下、市協会)は交代で毎回スタッフ1名が参加
その他	浦添市国際交流協会主催で2020年度に開始。2021年度から市が主催となり今年度で3年目。筆者はファシリテーターを務める。

上記活動は日本語が全くわからない外国人住民の参加は厳しい。また、市協会は度々「日本語教室」有無に関する問い合わせを受け、読み書きを中心とした日本語教室の必要性を感じていた。

以上のことから、市協会は、初級レベルの新規日本語教室の開講を目指し、文化庁事業「令和5年度『生活者としての外国人』のための日本語教室空白地域解消推進事業地域日本語教育スタートアッププログラム」に応募。今年度は新規1年目で地域日本語教育アドバイザーの派遣を要請し、「地域日本語教室開講準備講演会」を2回開催した。

(2) 活動「やさしい日本語」を通して見えてきた課題

- ① 中長期的な計画、状態目標の設定がない
- ② 市の総合計画と活動の関連性について話す機会がない
- ③ 異なる立場の関係者が置かれている状況や思いを互いに把握できていない
- ④ 筆者から市協会や市への働きかけが弱く、1人で活動を考え実践することに終始している
- ⑤ 担当者の異動・変更が重なり、上記の課題解決に踏み込めない

2. 実践の内容

本実践では、上記課題②③④の解決を目指した。市、市協会、筆者異なる立場である関係者間の連携・協働を推進するための第一段階として、自ら関係者と会い、今年度開催した日本語教室や文化庁事業等に関しヒアリングを行った。

行ったこと	明らかになったこと
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">市担当者へのヒアリング(9月)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「やさしい日本語」の目的・課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人参加者への募集方法・アプローチが難しいと捉えている ・コロナ禍が明け、課内の通常業務が戻り、地域日本語教室の優先順位は低い
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">市協会担当者へのヒアリング①②</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">(①10月 ②12月)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・文化庁事業の振り返り・進捗 ・来年度以降の予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人住民のニーズ(日本語学習)の把握方法がわからない ・文化庁事業を通し、「日本語教室」の目的・内容等を再考中 ・市には文化庁事業にもっと関わってほしいという思いを抱いている ・来年度文化庁事業は継続せず、自主事業として新規日本語教室の開講を検討中 ・このヒアリングが、市協会スタッフ間で情報共有・意見交換を行う機会となっていた
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">市担当者と市協会担当者を交えた</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">ミーティング(2月)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・市が掲げる第五次総合計画「多文化共生・国際交流」について ・今年度「やさしい日本語」の振り返り ・来年度「やさしい日本語」の予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画と「やさしい日本語」の関連について共通認識を持てた ・昨年から続く自然災害を受け、災害時外国人住民への情報提供が重要と捉え、来年度の主なテーマとして「防災」の提案があった ・今後も市協会と協力・相談しながら活動内容を調整・決定する ・来年度は講師謝礼金ではなく、委託料で依頼を検討中 ・他府県の事例を伝えるのは非常に有効(本研修で見聞きした情報) ・後日、市と市協会で話し合いの場が持たれる予定 (連携体制、新規の日本語教室開講、文化庁事業の共有等について)

3. 地域日本語教育コーディネーターとして果たした役割や大切にしたい視点

- ・相手の立ち位置・状況の理解に努める
- ・目の前だけでなく先を見据えつつ、焦り急がないこと
- ・私の立ち位置でしかできないことを考える
例) 関係者間の接点をつくり、互いの思いを伝え合う場の企画・実施、継続的な伴走
- ・様々な方向やリソースから働きかける(人・情報/間接的・直接的)
- ・行う活動がまちづくりにどう貢献するのか関係者と共に考え、共通認識をもつこと

4. 実践において難しいと感じたこと、今後に向け知りたいこと

- ・相手に響く言葉の見極め
- ・地域日本語教育事業の見せ方と伝え方
- ・立場の異なる関係者を巻き込んだチームづくり
- ・助成金情報
- ・他府県の「地域日本語教育」「多文化共生」実践事例